

## News Release

# 被災から4か月。停電被害のあったタワーマンションの復旧を内側から語る。 ステーションフォレストタワーの真実

台風19号による被災から4ヶ月。ほぼ復旧に至った現在まで、これまで様々な人や組織が協力して活動をしてきました。今回、原因究明と再発防止に関して方向性が見え居住者への一定の説明も済んだタイミングで、当マンションに起きた出来事・真実を広く知っていただく事を目的として、本リリースならびに「台風19号被災原因調査及び再発防止策検討状況の報告」を作成しました。リリースとしてまとめるにはボリュームが膨大なため、報告書は最下部の二次元コードよりダウンロードをお願いします。



満水となった地下ピットから溢れた水を空きのある地下ピットに水を送る作業をする居住者ボランティア

## 台風19号による被害

多摩川流域で平均470mmの降雨があり、多摩川の水位が上昇。山王排水樋管からの逆流により当マンション敷地内および周辺が浸水した。住民による土嚢積み作業や必死の排水作業等を行い建物1階への浸水を防止出来たものの、10月13日未明に地下3階部分が浸水し、電気設備を含む多くの設備が故障する等、多大な被害を受けた。



災害対策本部に集まった理事会 / 防災・防犯委員会  
管理会社のスタッフ

## 迅速な初期対応

被害の翌朝には自主防災組織である「災害対策本部」が設置された。ボランティアスタッフの協力を得て、規約に沿った防災用照明、周辺清掃、水・簡易トイレの配布など高層階も含めた支援の実施を行った。大きな混乱もなく居住者同士が協力しあって物資を運ぶ等の作業に臨めたのは平時の災害対策や防災訓練の成果である。



復旧当初、稼働台数が限られていたため  
停止階を制限して運行されたエレベーター

## 被災後1か月で元の暮らしに

被災初日「電源は当分復活しません」と掲示が貼り出され、先の見えない被害状況だったが、関係各社の協力により、電力は約1週間、水道は約2週間で復旧した。長期の避難生活を覚悟し、マンションの確保等の準備を始めていた居住者からは驚きの声が出た。被災1ヶ月後には被災前とほぼ同じ生活を送ることができるようになった。



被災2ヶ月後に開催されたXmasイベントでは  
多数の居住者が憩いのひとときを楽しんだ

## 震災対策で再認識した居住者の一体感、協力体制

被災当日のボランティア募集館内放送では、瞬間に200人近い人が集まり、逆に人が余った程だった。2度開催された住民説明会では、説明に対し拍手が起こることもあり、終始和やかに進んだ。12月に開催されたXmasイベントは、被災対策を労う一幕もあり多くの参加者が楽しいひとときを過ごした



竣工図面で浸水原因を究明する居住者有志によるチーム

## 居住者主導の原因究明で、夏に向けた再発防止対策を検討

緊急対応の役目を担った災害対策本部の解散後、本課題に専門に取り組む対策チーム「SFT1013 対策タスクフォース」が居住者の有志で結成された。「原状回復」「保険・財務」「原因調査・再発防止検討」「情報伝達&広報チーム」の各チームに別れそれぞれ活動を行い、成果を居住者に向けて発信している。今回のリリースもタスクフォース主導で実施。

報告書ダウンロード



このリリースに関する報道関係者からのお問合せ先

パークシティ武蔵小杉ステーションフォレストタワー管理組合 SFT1013 対策タスクフォース広報チーム

**sft-koho19@ml.tepm.jp**

※マンションへ直接の取材、お電話等、メール以外でのお問合せはご遠慮ください